

第6回学会発表のまとめ

菊谷氏の「トクヴィルにおけるアソシアシオンとコミューン」についてのコメント

平子 友長（一橋大学社会学研究科教授）

菊谷氏は、トクヴィルの主著の一つ『アメリカのデモクラシー』の中に「政治的アソシアシオン」と並んで「市民的アソシアシオン」という特異な概念が提起されていることに着目し、両概念の違いを検討しつつ、とりわけ「市民的アソシアシオン」というパラドクシカルな概念が提起されざるをえない根拠を、近代社会それ自体が抱えている社会的矛盾のうちに見いだしている。アソシアシオンとは、フランス革命後ル・シャプリエ法によってそれ以前に存在していたすべての中間団体が禁止され、人々が社会的絆を喪失して（それから解放されて）独立の諸個人に還元されたことを前提として、それら諸個人が自由な意志に基づいて人為的に結成する組織のことである。「政治的アソシアシオン」とは、このようにして意志的・契約的に結成された組織を意味する。それは自由に結成されたものであるがゆえに、自由に解消することも、脱退することもできる組織である。ところがトクヴィルは、このような「政治的アソシアシオン」がそもそもアソシアシオンとして機能するためには、特定の政治的目的なしに人々を自然的に結合する「市民的アソシアシオン」が不可欠であると主張する。トクヴィルは、この「市民的

